

開館 20 周年 記念 事業

京都 浅山 狂言

平成 29 年 6 月 29 日 (木)

午後 7 時開演 (午後 6 時 30 分開場)

白馬ウイング 21 文化ホール



佐渡狐



二九十八



神鳴

- チケット 前売り券:一般 1,500 円、高校生 500 円、中学生以下無料(当日券は 200 円増し)、会員 1,000 円
- 友の会会員は、ウイング 21 又は教育委員会でご購入ください。
- 公演中止の場合のほかは、返金又は他のチケットとの交換はいたしません。
- プレイガイド:ウイング 21/役場教育委員会/道の駅白馬/明寿堂/太田薬局/クリーニングのハビア/喫茶店ふう/北村時計店(小谷村)/大町市文化会館

【主催】ウイング 21 芸術文化シリーズ実行委員会

演目紹介

佐渡狐

さどきつね

越後と佐渡のお百姓さんが都へ年貢を納めに行く途中で出くわします。

その道中、佐渡に狐がいるかないかで争いになり、いないにも関わらず「いる！」と見栄を張る佐渡のお百姓さん。そこで二人は小刀を掛けて奏者(取次役人)に判定してもらうことにします。このままでは賭けに負けてしまう佐渡のお百姓さんは何やら奏者と秘密の相談…。

二九十八

にくじゅうはち

独身の男が清水寺に参詣し、良い妻を授けてもらうよう観世音に求めます。すると夢でお告げがありその場所に行くと言った女が立って待っていました。声を掛け自分の妻になる人かを確認し住まいを尋ねますが女は謎めいた歌を口にし姿を消してしまいます。ようやく答えが分かった男は女の住まいを訪問します。盃をとりかわし末永くと誓い合い祝言を目出度く終えますが…。

神鳴

かみなり

やぶ医者が都から東国へ下る途中、突然雷鳴がとどろき目の前に神鳴が落ちてきます。神鳴は腰を打ったらしく苦しむので医者が針治療をしますが神鳴は痛がって騒ぎます。治療の甲斐あって腰も治り喜んだ神鳴はたちまち雲海に帰ろうとしますが医者はあわてて治療費を要求します。お金の持ち合わせのない神鳴はかわりに八百年の間日照りも水害も怒らないようにすることを約束します。

演者紹介



茂山 あきら

- しげやま あきら 1952年6月12日生まれ。本名・晃。二世茂山千之丞の長男。父および祖父三世茂山千作に師事。3歳のとき『以呂波』のシテで初舞台を踏む。1975年『三番三』および『釣狐』、1994年『花子』を披く。2001年より狂言と新作落語のコラボレーション〈落言(らくげん)の会〉「お米とお豆腐」を結成し、全国津々浦々で活動中。その他オペラや新劇、パフォーマンスなどの企画・構成・演出なども手がけるマルチな舞台人間として日本中を飛び回っている。また、千之丞のパイオニア精神を受け継ぎ、1981年に欧米の現代劇と日本の古典芸能を融合した「NOHO(能法)劇団」をジョナ・サルズと共に主宰。ベケットの不条理演劇、英語による海外公演も数多くこなし、国境も言葉もジャンルも飛び越えたワールドワイドな演劇活動を展開している。著書に「京都の鼠」(KKベストセラーズ)がある。第31回京都府文化賞功労賞受賞。



茂山 童司

- しげやまどうじ 1983年4月2日生まれ。茂山あきらの長男。父および祖父二世茂山千之丞師事。1986年、『魔法使いの弟子』(NOHO(能方)劇団)で初舞台。1997年『千歳』、2004年『三番三』、2006年『釣狐』を披く。語学に堪能で近年はNHKテレビの語学番組「プレキシソ英語」に“カウドージ”なるキャラクターでレギュラー出演していたほか、国内外でバイリンガル狂言公演や若手アーティストや劇団とのコラボレーションを行うなど表現者としての新境地を切り開いている。2013年夏に自らが作・演出を手掛けるコント公演「ヒャクマンベン」、2014年春に100年後の古典を目指す新作狂言の会「新作“純”狂言集マリコウジ」の両プロジェクトを始動させる。横浜トリエンナーレ2014の正式招待プログラムである「釜ヶ崎芸術大学」の講師として狂言を指導し、新作狂言上演の成功を導く2015年東京芸術劇場、金沢歌劇座で上演のオペレッタ「メリーウィドウ」の脚本・演出を手掛けるなど役者としてだけでなく演出家としても精力的に活動中。



山下 守之



井口 竜也



島田 洋海



茂山 茂